（様式１）

平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） １０３	**提案機関名**	（社）神奈川県園芸協会（県果樹組合連合会）

要望問題名　ドライミストを活用した夜温低下によるブドウの発色効果と品質向上

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

ブドウは大粒種が主流となり、赤系、黒系の品種が多く、その発色等は商品価値を大きく左右する。果実の着色はアントシアン含量と関係が深く、品種間の差も多いが、特に夏季の夜温の上昇は着色を図る上で大きな障害となっている。

そこで、最近ヒートアイランド現象を解消する手段としてドライミストの活用で温度の低下を図る技術が出てきた。従来のミスト散布より湿度上昇を抑え、病害虫の発生を押さえられる手法であり、気化熱による温度低下で着色度合いを上げる効果も期待できると思われるので、その検討をお願いしたい。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術センター　③水産技術センター ④自然環境保全センター
備　考	

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	**担当部所**	果樹花き研究部

対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

対応の内容等

ブドウの果色はアントシアンの濃度に大きく依存し、その発現量は、色素の構成要素である糖の十分な果粒への流入や夜温の低下が必要です。しかしながら昨今の温暖化により着色不良の房が増えていることは現実です。

当所では、‘安芸クイーン’で着色向上を目的とした環状剥皮について取り組んだ経緯がありますが、ドライミストについては全く未検討です。房周囲の温度低下には一定の効果があると考えられますが、着色や品質、周囲の生育環境に及ぼす影響等検討すべき点は多いと考えられるため、実態調査等に協力します。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	